

標本調査

政策専攻・経営学系専攻(B,M)基本科目
経営学系専攻(R)応用科目

水曜6限 (18:30 ~ 20:00)

509セミナー室

担当: 竹内恵行

4/19/06

1

授業目的

- 調査研究(フィールドワーク)で用いられる社会調査法の習得
- 具体的には、標本調査法(調査票調査)とその関連手法を学ぶ

4/19/06

2

履修要件

- 学部程度の統計学の知識があること。
- データに基づく「実証研究」に関心のあること。
- 統計学の知識に自信のない受講者は、火曜6限に開講される、「統計」(福重教授)の受講を勧める。

4/19/06

3

教科書

- メインテキスト
盛山和夫(2004), 『社会調査法入門』, 有斐閣
(生協書籍部で入手可能)
- サブテキスト
Babbie, E. (2003), The Practice of Social Research, 10th ed., Wadsworth.
Babbie, E. (渡辺聰子監訳)(2003), 『社会調査法1:基礎と準備編』, 培風館(上記9版の邦訳)

4/19/06

4

参考書

- 佐藤郁哉(1992), 『フィールドワーク』, 新曜社 (必読のこと)
- 森岡清志(編著)(1998), 『ガイドブック社会調査』, 日本評論社
- 田尾・若林(編著)(2001), 『組織調査ガイドブック』, 有斐閣
- 盛山・近藤・岩永(1992), 『社会調査法』, 放送大学教育振興会
- 西平重喜(1985), 『統計調査法 改訂版』, 培風館
- 豊田秀樹(1998), 『調査法講義』, 朝倉書店
- Lave, C.A. and March, J.G. (佐藤嘉倫他訳)(1991), 『社会科学のためのモデル入門』, ハーベスト社

4/19/06

5

授業の進め方

- 講義

知識を与えるだけでなく、実践できるような力を養成するために、以下の方法も活用

- ケーススタディ
- グループワーク(プロジェクト)

4/19/06

6

成績評価

- グループワークの報告およびレポート(50%)
 - 教員評価 + 受講生の相互評価
- 期末試験(50%)
 - 持ち帰り試験

4/19/06

7

質問A-1:佐藤郁哉(1992)「フィールドワーク」より抜粋 自分にあてはまるものについて ×を付けてください

- 何でも数字におきかえなければガマンできない
- グラフや表が出てくるとわけもなく「科学的だ」と思ってしまう
- 物事を「狭く深く」というよりは「広く浅く」知りたい
- あいまいなことが死ぬほど嫌いだ
- なるべく効率よく仕事をしたい無駄なことは大嫌いだ
- うだうだと理屈をこねるのが何よりも好きだ

4/19/06

8

質問A-2

- 理屈なんか要らない、要するに「現場」に行って肌で感じとれればいいんだと思っている
- 「徒弟制度」という言葉を聞いただけでジンマシンがでる
- 人と話をするのは大の苦手で嫌いだ
- メモをとるのは面倒くさくてイヤだ
- 原稿用紙20枚以上の文章なんてとても書けない

4/19/06

9

質問B

- 一見つまらないように見えることでも感心したり感動できる
- 自分のことをつき放して観察できる
- ある程度いい加減でずぼらだと思ふ
- ある程度シツコクでクドい方だと思ふ

4/19/06

10

質問A, Bの の数

- 質問Aの の数
 - 3つ未満 フィールドワークの数が多ければフィールドワーカーとして有望
 - 3つ以上 フィールドワーク向きではない

4/19/06

11